新連載

石井至の世界放浪記（第一回）

マイナー国を旅して

幸せって何だっけ。

昨年十月にフジテレビの番組でお世話になった明石家さんま氏は、バブル絶頂期直前に「ポン酢醤油のあるうちさ」と言っていた。まずは、今回、幸せについて考えることになったきっかけから説明しよう。

木村三浩さんとの出会いはひょんなことだった。長年ご指導頂いている、月刊レコンキスタでお馴染みの池口恵観大闇梨から銀座の料亭でご紹介して頂いたのが最初だった。昨年の夏、ちょうど私がロシアのソチに初めて行く前で、ソチに行ったことのある日本人を探していた。来週ソチに行くと言うと、なんと木村さんはソチへの訪問経験があるどころか、お隣のアブハジアの選挙監視団だったと言う。「この人は何者だ」と改めて木村さんの顔を凝視した。もちろん、あの有名な一水会の代表だということは知っていたが、一水会が国際的な活動を活発にしていることを知らなかった。そのうち、木村さんの携帯が鳴った。「失礼」と言いながら電話をとったところ、話しだすのは英語ではないか。私は駐日ドミニカ共和国大使館名誉相談役や駐日ルワンダ共和国大使館特別顧問など外国政府のアドバイザーをしているので普段から拙い英語を使うが、英語で電話会話することの難しさはよく知っている。にもかかわらず、木村さんは涼しい顔をして英語での長話をしていた。驚きと敬意というのが木村さんへの最初の印象だ。

その後、私の十年来の友人が木村さんの麻雀仲間であることがわかり、急に親近感を持った。さらに、木村さんと話しをさせて頂くと、おこがましいことだが一緒に行動できることがあることがわかった。そして、この度、月刊レコンキスタへの投稿を依頼されることになった。

私には放浪癖があり、一年の約三分の一は海外で過ごす。

昨年は顧問先のルワンダやドミニカは当然ながら、先ほど話したソチの他、キューバ、コロンビア、スペイン・バスク地方、リトアニア、ラトビア、ロシアの飛び地カリーニングラード、アゼルバイジャン、東チモールなど様々な所を訪問した。

昨年の最後の訪問先はブータン王国だった。十二月中旬、総選挙直前に訪問した。

ブータンと言えば、昨年、若い美男美女カップルのワンチュク国王とペマ王妃が来日し一気に知名度が上がった。また、GNHなる独特な理念も急に有名になった。

GNHとはグロス・ナショナル・ハッピネスの頭文字で、国民総幸福という概念だ。ご存じの通り、経済学の指標にGNPというものがある。国民総生産だ。一国で一年間に生産した財・サービスの総額がGNPだが、それに模して名付けられたのがGNHだ。経済的・物質的な豊かさではなく、心の豊かさを重視すべきだという提言であり、前国王が一九七二年に提唱したものだと言う。

日本とは対極の国・ブータン

今回のブータン訪問は、ブータンにあるリゾートホテルの取材が目的だった。私の会社は出版社のライセンス（いわゆる取次コード）を持っており、教育関係の本の他、旅行ガイドを出版している。昨年十二月には、旅行ガイド三冊目である「バル、タパス、アルサック」（日本人のあまり行かない世界のセレブ・リゾート3）という旅行ガイドを出版したばかりだ。サンセバスチャンというスペイン・バスク地方の町は人口わずか一八万人だが、人口一人当たりのミシュランの星の数が世界一多いという世界一のグルメの街で、その謎に迫るというのがメインテーマだった。実は、世界一になった理由はバスク独立運動と密接に関係していたことがシェフたちへのインタビューでわかったのだが、詳細は別の機会にご案内しよう。

話を元に戻そう。日本からブータンに行くにはバンコクでの乗り換えが一般的だ。ドゥルックエアというブータン国営航空で入国する。ブータンの観光は特殊だ。まず、公定料金という制度がある。時期や人数によって異なるが、一日最低二百米ドル以上のお金を宿泊などに使わないといけない。したがって、観光ビザを取る際に公定料金以上の旅程になっていることが必要だ。だから、安宿バックパッカーの旅というものはブータンには存在しない。

ブータンはヒマラヤ山脈の東側に位置する国だ。そのため、北緯二十度台と沖縄と同じような緯度にも関わらず、東部の標高が低いところを除くと高山気候だ。首都ティンプーは標高二千三百メートルに位置し、ブータンで唯一都会らしい雰囲気のあるところだが、概ねブータンは山と棚田というのが典型的な風景だ。

ガイドのヤラップ氏によると、ブータンでは多くの地域では貨幣経済が必ずしも一般的ではないと言う。家を建てるときも、政府から許可を得て木を伐り、近隣住人が協力して家を建てるという。「持ちつ持たれつ」の関係で、食べ物も物々交換が一般的とのこと。お金で物やサービスを買うというのは、首都ティンプーや国内唯一の空港を持つ町パロのような都会だけらしい。

ブータンでは何よりも仏教が国民の生活に浸透している。輪廻転生を当たり前のものとし、来世のために今世で善いことを行うという意識は普通だと言う。

GNH（国民総幸福）には四つの柱がある。①持続可能で公平な社会経済開発、②環境保護、③文化の推進、④良き統治の四つだ。つまり、スピーディーな開発や、都市が経済をけん引する小泉政権時の経済政策等はGNHに反することになる。

つまり、国民総幸福の向上と言っても、幸福の定義やアプローチには様々なものがありえる。

幸せって何だっけ、何だっけと歌いながら、このように考えていた。

石井至
（いしい・いたる）

昭和４０年、北海道生まれ。東京大学医学部卒。フランス系のインドスエズ銀行を経て、平成９年に石井兄弟社設立。同社代表取締役社長。金融ハイテク技術コンサルタントを行う他、東京にて幼児教室「アンテナ・プレスクール」を主宰。著書に「図解　リスクのしくみ―基礎知識の理解から具体的リスクへの対処法まで」（東洋経済新報社）「慶応幼稚舎」（幻冬舎新書）など多数。